

龍谷

Ryukoku

2017 No.83



CONTENTS

- 01** P01
Feature Article 巻頭特集
波動を起こす大学へ
入澤 崇 (第19代学長)
「対話」と「実行」の6年間
赤松 徹真 (第18代学長)
- 02** P06
第5次長期計画を中心とした
赤松徹真学長在任中の主な取り組み
- 03** P07
Ryukoku Event
- 04** P08
People, Unlimited
自然界から学ぶ、
水をはじき返す光応答材料の研究発表
西村 涼 さん 理工学研究科
- P10
People, Unlimited
プロへのスタート
スタースカウト総選挙 2万4千人の頂点に
秋山 未有 さん 国際学部
- P12
People, Unlimited
めざすは20代で独立開業
司法書士試験 合格
宮野 純樹 さん 法学部
- 05** P14
Education, Unlimited
京都世界遺産 PBL
「醍醐寺 × 龍谷大学」
笠井 賢紀 講師 社会学部
- P18
Education, Unlimited
管理栄養士の卵がサポート
選手達のカラダづくり
石原 健吾 准教授 農学部
- P22
Education, Unlimited
世界のジャーナリズムを学び
真実を顕かにする市民となれ
八幡 耕一 准教授 国際学部
- 06** P26
World, Unlimited
あなたの手中にある
「今、ここ」を大切に
アウン・サン・スー・チー氏 ミャンマー国家最高顧問
- 07** P30
Event Ryukoku Museum
歴代宗主のいざないで真宗美術を堪能する
石川 知彦 龍谷ミュージアム副館長
鏡山 智子 龍谷ミュージアムリサーチ・アシスタント
- P32
第14回青春俳句大賞
- 08** P34
People, Unlimited 龍谷人
赤ちゃんと畑をつなぐ
旬の有機野菜の離乳食
武村 幸奈 さん 株式会社はたけのみかた 代表
- P36
People, Unlimited 龍谷人
世界に挑む 人を幸せにする
コーヒーの伝道者
小林 康人 さん 小川珈琲株式会社
- P38
People, Unlimited 龍谷人
減災意識向上がミッション
新時代の気象プレゼンター
藤岡 茜 さん 株式会社ウェザーニューズ キャスター
- 09** P40
News & Topics
最新情報
- 10** P47
Book Café
新刊紹介

01 | Feature Article

巻頭特集
次期学長に聞く

波動を起こす大学へ

第19代 龍谷大学学長
入澤 崇 (2017年4月就任予定)

赤松学長6年間を振り返る
「対話」と「実行」の6年間

第18代 龍谷大学学長
赤松 徹眞



Feature
Article

People
Unlimited

Education
Unlimited

World
Unlimited

People
Unlimited 誰か人

News &
Topics



入澤 崇 いらさわ たかし 1955年広島県因島生まれ。
龍谷大学大学院文学研究科修士課程修了、龍谷大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学。文学修士（龍谷大学）。1990年龍谷大学文学部講師、1996年龍谷大学文学部助教授、2000年龍谷大学経営学部助教授、2002年龍谷大学経営学部教授、2010年龍谷大学文学部教授、2013年龍谷大学龍谷ミュージアム館長、2015年龍谷大学文学部長、2017年4月学長に就任予定。専門は仏教文化学。日本印度学仏教学会、仏教史学会、密教図像学会等所属。

波動を起こす大学へ

第19代学長 入澤 崇(2017年4月就任予定)

激動する世界情勢、排他的な風潮も強まってきた今、大学教育はどうあるべきなのかをあらためて考えています。本学は378年という長い教育研究歴を持っています。明治の初めに 廃仏毀釈という仏教大弾圧があったとき、西本願寺がはじめた先進的な取り組みの一つに、本学の前身である大教校、地方に中教校、小教校の設置がありました。当時新政府が進めていた学制と張り合うような形で、浄土真宗の精神に基づく人材育成組織を裾野の広い形でつくり上げたのです。明治35年には大谷探検隊が世界に向けて研究発信をおこなっていました。その力強い情熱をもう一度ここで取り戻すべきではないでしょうか。

「利他的な人間の育成」、これが学長として私の一番めざすべき仕事だと思っています。我々仏教系の大学こそが、利他の精神で世界を包み、排他の空気を一掃していかねばなりません。「今、慈悲の心を世界に」と、1月に本学の世界仏教文化研究センターのシンポジウムで講演された、ジャーナリストの池上彰さんもおっしゃいました。それは本学だからこそできることなのです。

浄土真宗を建学の精神とする本学では、独特な教育が施されています。各学部一つひとつは他の大学にもあるものですが、「龍谷大学で学ぶ」となれば根っこが明らかに違う。根っこを育てることにあたる時間が、1年生時の必修科目「仏教の思想」です。そこでは釈尊と親鸞聖人を通して仏教の考え方を学ぶと同時に、「常に我が身を省みる」習性を身につけるのです。大学生になって、自由になったという気持ちになると思うのですが、そのときにふと立ち止

まって、今ここに自分がいるのは、自分だけの力によるのか。そうじゃない。親兄弟、先生や友人など「自分以外の者が関わり、支えてくれてこそ今の自分」、これに気づくことが「利他の精神」を涵養することにつながっていきます。

日本では震災以降、学生達のなかで、ボランティア活動などを通して社会に貢献したいという気持ちが明らかに高まっています。同時に、仏教への関心も強まってきました。それは「いのち」に対する関心でもあります。現実を直視して、現代の課題と向き合う知性を鍛錬していく。これが教育の質の向上につながると思います。人間としてどう生きるかを学び考える教育、これが龍谷大学の大きな特色です。偏差値で計ることのできない価値の創造は、志の高い高校生にも伝わるはずですよ。

ブランディングは、スローガンを掲げて顔の見えない人達に訴えるということをやりがちなのですが、まずは自分達、内部の構成員がそれを実践する気になっているかどうか肝要です。その波動が社会に伝わっていくのです。いま本学にはすぐれた教職員がたくさんいますから、叡智を出し合って、「慈悲の心」「利他の精神」を具体化して発信していくことがブランディングとなるのではないのでしょうか。仏教総合博物館である龍谷ミュージアムの外観には「波」のモチーフがデザインされています。仏教精神の波動を意図したものです。私は今、龍谷大学から「波」を起こしたいと思っています。「波」を起こすのは学生一人ひとりです。人間の存在を深くみつめる習性を身につけた学生諸君が、専門知識と幅広い教養でもって未来へと力強い一歩を踏み出していく。その波動が、産業界や法曹界、さらには地域社会へと伝わるよう全面的に支援していきたいと考えています。龍大生の大いなる飛躍、ご期待ください。

Feature
Article

People
Unlimited

Education
Unlimited

World
Unlimited

People
Unlimited 龍谷人

News &
Topics



赤松 徹眞 あかまつ てっしん 1949年奈良県宇陀市生まれ。龍谷大学大学院文学研究科修士課程修了、龍谷大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学。文学修士（龍谷大学）。1984年龍谷大学文学部講師、1987年龍谷大学文学部助教授、1998年龍谷大学文学部教授、2005年龍谷大学教学部長、2007年龍谷大学文学部長、2011年4月学長に就任、現在に至る。専門は日本仏教史（日本仏教の歴史的な展開、現代仏教の可能性を研究）。

「対話」と「実行」の6年間

第18代学長 赤松 徹眞

時間感覚で言うと瞬く間の6年間でした。就任にあたっては、ずっと本学に身を置いてきた者として感じていた停滞感、閉塞感を打破せねばならないという思いでいました。テーマを掲げるだけでなく実行してこそだと。実行力につなげるために、対話のある大学づくりをしてきました。些細なことですが、職員や学生とのランチミーティングは風通しを良くし、対話しやすい関係を築くための一つのアイデアでした。

未来への提案ともいえる農学部の開設。真のグローバルコミュニケーションができる人材の育成をめざして移転・改組した国際学部。町家キャンパスは地域との交流の場として活かされています。龍谷ソーラーパークの事業化は、原子力に依存したエネルギーの見直しを具体的にどうするのかという、国家的課題に対しての本学としての姿勢。龍谷ミュージアムは、仏教総合博物館としても、私立大学がもつミュージアムの規模としてもトップレベルのものできました。世界仏教文化研究センターも「世界に躍動する龍谷大学」を具現化したうちの一つです。ラーニングcommonsの開設は、大学内で仲間と集まって何かに取り組めるような環境を提供できれば、学生が大学にとどまる時間が増え、そこから創造も生まれ、帰属意識も高まるとの考えからでした。

「今現在の龍谷大学」を多方面の社会に発信していく意味でのブランディング活動。長い伝統、卒業生達の母校イメージ、それらへの誇りは当然守りながらも、懐かしがっているだけでは創造していけない。創造的なものへのきっかけ、転機ととらえています。まだ途上で

はありますが「動いているね」という感想をいただいております。とは言え、内外双方に浸透するまでは長期的な取り組みになると認識しております。

これらのことの実現については大学執行部や各学部長が学生の現場、大学職員の現場、地域の現場に対しての当事者意識を持って、さらに、自分が動かすのだという意識を持って挑んだ結果です。私自身が学長としてできたことは、そのように実行力を発揮していただける方々を選し、対話し、行動していくということでした。トップが動かないと組織が動かないということを実感いたしました。

私の原動力は、本学を見る社会の目を変えていきたいということでした。「高校までの勉強スタイルでの成績がいいかどうか」で大学を選ぶという時代は、もう終わりを迎えつつあります。大学4年間、自由な時間が増えた状態で、関心があることを勉強し始める、時間を費やせる。そうできれば最後には入学時の学力とは質的に違うようなものを身につけることができ、達成感と社会でやっていく自信が培われる。社会に出て、自分がやっていく仕事とは何なのか。仕事ではなくてもフリーな時間を使ってやりたいことが実現できる。その自信を培える大学でありたい。

少子化とは言え、進学者にとってそのような未来が見える魅力的な大学であり続けなければならない。期待に応えるような大学づくりを一步でも半歩でも進めて、発信していくことが大切なのではないでしょうか。

(赤松学長在任中の主な取り組みは、次のページで紹介)

02 | 第5次長期計画を中心とした 赤松徹眞学長在任中の主な取り組み

(年度)

- 2011
「政策学部・大学院政策学研究所」を開設
短期大学部を改組し、「こども教育学科」を開設
「龍谷ミュージアム」を開館
東日本大震災（宮城県石巻市）復興支援ボランティア活動を開始
- 2012
「文学部臨床心理学科・大学院文学研究科臨床心理学専攻」を開設
国際交流会館「りゅうこく国際ハウス」を開館
新しい「龍谷ブランド」を策定
深草キャンパスに「22号館」を竣工
- 2013
学校法人龍谷大学100%出資の事業法人「龍谷メルシー株式会社」を設立
「深草町家キャンパス」を整備
和歌山県印南町及び深草キャンパスに「龍谷ソーラーパーク（地域貢献型メガソーラー発電所）」を設置
「教養教育センター」を開設
「スポーツ・文化活動強化センター」を開設
ミャンマー連邦共和国より、アウン・サン・スー・チー氏を招聘。名誉博士号授与及び学生向け講演会を開催
- 2014
「龍谷大学国際化ビジョン2020」を策定
「障がい学生支援室」を開設
社会連携推進会議を設置し、「社会連携支援室」を開設
第5次長期計画第1期中期計画を総括し、「第2期中期計画」を策定
- 2015
国内の大学で35年ぶりとなる「農学部」を設置
国際文化学部を「国際学部」に改組し、深草キャンパスに移転
学校法人平安学園との法人統合を実施
深草キャンパス「和顔館」及び瀬田キャンパス「9号館」を竣工
「龍谷大学ラーニングコモンズ」（スチューデントコモンズ、グローバルコモンズ、ナレッジコモンズ）を開設
「世界仏教文化研究センター」を開設
「食と農の総合研究所」を設置し、「食の嗜好研究センター」を開設
農学部実習農場（牧農場・堂農場）を整備
三重県鈴鹿市に「龍谷ソーラーパーク」を設置
- 2016
「文学部歴史学科文化遺産学専攻」を開設
「社会学部現代福祉学科」を開設
熊本地震（阿蘇市・南阿蘇村）復興支援ボランティア活動を開始
財政改革（教学充実にかかる財源確保・学費改定など）を推進
課外活動施設「専精館」を竣工
大学内設置としては京都府内唯一となる、国政選挙の期日前投票所を開設
ミャンマー連邦共和国 国家最高顧問 アウン・サン・スー・チー氏と本学学生の懇談会を開催

03 | Ryukoku Event

世界仏教文化研究センター開設記念事業

特別講演会「世界の苦悩に向き合う 仏教の可能性—共に生きる道はどこに—」を開催

2017年1月に、「世界の苦悩に向き合う仏教の可能性—共に生きる道はどこに—」をテーマに、世界仏教文化研究センター開設記念事業特別講演会が、深草キャンパス顕真館で開催された。ジャーナリストで名城大学教授の池上彰氏による特別講演、東洋大学の竹村牧男学長の講演の後、赤松徹真学長を交えた鼎談がおこなわれた。

世界の苦悩を平安に転換していく道を共に構築するにあたり、仏教の果たす役割について意見が交わされた。

日時:2017年1月29日(日)

場所:龍谷大学深草キャンパス 顕真館



龍谷大学シンポジウム

日本料理の新しい味を探る

2017年2月に、「龍谷大学シンポジウム—日本料理の新しい味を探る—」を開催した。本学付置研究所である「食と農の総合研究所」の附属研究センター「食の嗜好研究センター」では、食の嗜好性(おいしさ)を科学的に説明することを目的に、本学研究者が料理人をはじめとする学外組織からの客員研究員と協力して、研究活動をおこなっている。当日は、これらの研究成果発表のほか、客員研究員がプレゼンテーションで紹介した料理の試食会がおこなわれた。

日時:2017年2月18日(土)

場所:ANAクラウンプラザホテル京都 平安の間

【第1部】研究者 vs 料理人

- ・山崎 英恵(農学部食品栄養学科 准教授) vs 高橋 拓児(京料理 木乃婦)
- ・川崎 寛也(味の素株式会社イノベーション研究所) vs 生江 史伸(レフェルヴェンス)

【第2部】料理についてのプレゼンテーション

村田 吉弘(菊乃井)、栗栖 正博(たん熊北店)、才木 充(京料理 直心房あいき)、佐竹 洋治(京懐石 美濃吉本店 竹茂楼)、下口 英樹(平等院表参道 竹林)、宗川 裕志(大和学園)、高橋 義弘(南禅寺畔 瓢亭)、中村 元計(相伝 京の味 なかむら)、吉田 修久(修伯)、網塚 貴彦(長谷川香料株式会社総合研究所)



04 | People, Unlimited

自然界から学ぶ、 水をはじき返す 光応答材料の研究発表

西村 涼さん

理工学研究科 物質化学専攻
修士課程1年生

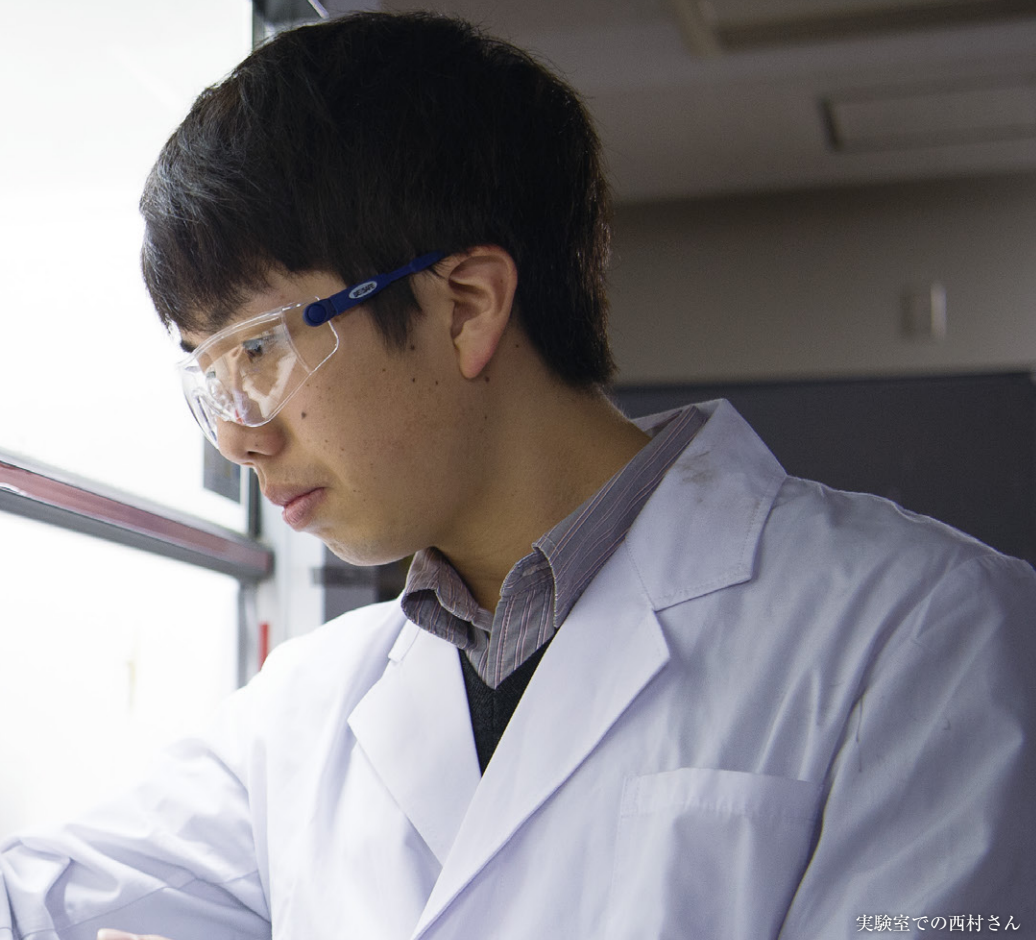
理工学研究科の内田欣吾研究室が研究する、有機化合物ジアリールエテン。この薄膜は、紫外線や可視線などの光を当てたり温度を変えたりすると、結晶が成長し色や表面構造が様々に変化する。カタツムリの殻のような超親水性を持たせたり、逆にバラの花びらのように水滴が固定されたり、さらに水滴を転がす超撥水性を持たせることに成功し、世界が注目する取り組みとなっている。

修士1年生の西村涼さんは、これをさらに追究。光照射と温度管理によって結晶の形を超撥水性のハスの葉表面、つまり大きめの突起の表面にさらに細かな毛がある「ダブルラフネ

ス構造」に近づけることで、落とした水滴を丸い状態ではじき返すことを確認した。これはセルフクリーニングの原点となり、工業製品への応用が期待できるほか、動植物の体表面構造を理解することにも役立つそうだ。

さらに、雨粒のような大きな水滴ははじくが、巣作りではコテのように使われ、地中の霧のような水滴は集めることができるシロアリの羽。西村さんはこれに似た表面構造も再現。光化学討論会(2016年9月)でそのポスター発表をおこない、東京大学、東北大学などの博士・修士課程生が参加するなか、最優秀ポスター賞を得た。

「今回は、内田研究室が持っている過去の



実験室での西村さん

データに目がとまりました。当時はこの再現膜の評価方法が見つけられず、途中で投げ出されていた。私が『ダブルラフネス構造』のときに水滴を落とす方法でやってみたところ、うまく水をはじき返すことができたんです」

学部1年生のときから、内田教授の自然界に学ぶものづくりの視点に興味があった。配属以来、研究漬けの毎日。複数のテーマに同時進行で取り組み、実験で評価できれば理論式で証明、論文にして発表という日々。「実験室で試行錯誤しながら、イメージした結晶を作っているときが一番好き」と目を輝かせる。西村さんの今後が楽しみだ。

「自然に学ぶものづくりは面白く、説明もしやすく、理解もされやすい。研究開発を通して、本学のブランド力アップに貢献したいと思っています」(内田欣吾教授)。内田教授は2016年ノーベル化学賞を受賞した、ベン・フェリンハ教授の共同研究者としても名を連ねている。



内田 欣吾教授

04 | People, Unlimited

プロへのスタート スタースカウト総選挙 2万4千人の頂点に

秋山 未有さん

国際学部国際文化学科1年生

「スタースカウト総選挙」は新世代のスターを発掘する、日本最大級のオーディションイベント。2016年全国2万4千人近い応募者のなかからグランプリに輝いたのが秋山未有さん。web投票グランプリ、ミスユニバース特別賞も受賞の三冠だった。優勝者は芸能事務所にスカウトされ、1年間で1千万円分の仕事が保証される。「遠方の仕事やスキルアップレッスンなどで、自分を成長させる1年にしたい」と意気込む。

大会では一人あたり数秒間のウォーキングでしかアピールできない。ウォーキングが苦手だったので、塾講師のアルバイトから帰宅した22時から、実家で全身鏡の前でハイヒールを

はいて夜中まで練習した。本番で評価された最高の笑顔が出せた理由は、ポーズを決める右・左・正面どこを見ても、応援してくれる友人やともに挑んだ仲間の顔があったから。

小さい頃から長身で、そのせいか可愛い女児服は自分に合わないと思い込んでいた。中学生になると大人サイズなら着られるとわかり、服やスタイルを褒められるように。高校2年生の時、あるオーディションドキュメンタリー番組に出演。しかし最後まで勝ち残ることができず、悔しい思いをした。と同時に、プロの指導に刺激を受け、熱量の高い仲間とも出会い、ファンとして自分に注目してくれる人も。それか



「2016スタースカウト総選挙」

ら少しずつフリーの撮影モデルの活動をはじめ、その奥深さにどんどん興味が増した。大学では国際文化学科の授業のなかで、世界の民族衣装を研究することに。暮らしや気候や思想に合った、スタイルを引き立てる素材や形があり、トレンドがある。ファッションの現場と学問がつながって、両方にますます意欲がわいてきた。そして徐々に増えていくファンや周囲の期待に何かの形で応えたい、高2の時の悔しさを晴らしたいとの気持ちが高まり、今回の挑戦。

「自分がグランプリだと誰よりも信じて疑わなかった。これが勝因だと思います。『謙虚さ』は大切、でもやりたいことを前にして『遠慮』は要

らない。座右の銘です」

意志の宿る力強い眼差しで語る彼女。大学生の間にいずれは留学もしたいが、まずは目の前のチャンスをしっかりつかみたい。4月から事務所の所属が決まり、本格始動する大学生モデル秋山未有。これからその活躍を目にするのが楽しみだ。

キャンパスでの
秋山 未有さん

04 | People, Unlimited

めざすは20代で独立開業 司法書士試験 合格

宮野 純樹さん

法学部4年生

法律系の資格で年齢制限がなく、最も難しい試験の内の一つ、司法書士。学部生現役で、予備校にも通わずそれに見事合格したのが、法学部4年生の宮野純樹さん。2016年度は合格率4%にも満たなかった難関、全国最年少合格者は21歳。彼はそれに次ぐ若さであった。

宮野さんが司法書士試験に焦点を当てたのは1年生の冬。その前に宅地建物取引士試験に合格して法律の面白さを知った。難関ゆえに同じことをめざす仲間がまわりにはおらず、合格に向けて孤高の戦いが幕を開けた。

金銭的な負担も考えての独学。費やす時間は、量より質を意識した。集中できないので自

宅での勉強は避け、2年半にわたる勉強は主に深草キャンパスの図書館。平日授業のない時間と土・日は図書館へ。登下校の電車内も勉強にあてた。携帯電話も必要時以外は持ち歩かない。同時に筋トレや音楽でメンタル面のバランスをとった。3年生での初受験は孤独感に押され、ラストスパートに集中できず、不合格だったが、翌年に再チャレンジ。この時はまわりに公務員試験に挑む友達もいて、最後までモチベーションを保つことができ、快挙の合格。

感心するほどの計画性とバランス性、それを完遂する精神力。まるでプロスポーツ選手のように、目標達成までのノウハウを頭でも体でも



一番落ち着いて勉強できたのは深草図書館だったという宮野さん

つかんでいるように思える宮野さん。聞いてみると「小学生の頃から野球に打ち込み、高校時代は野球部で甲子園をめざしていました。その時の練習に比べたら勉強はまだマシでした」という答え。「炎天下の練習や伝統的な上下関係など、野球生活は大変なことが多いけれど、自律心は養えました。今の自分の大半は野球のおかげだと思います」

卒業後は司法書士事務所に勤務する予定。「試験で得た知識と実務能力はまた違うと思っています。まずは仕事に慣れること。次にめざすのは20代での独立開業です」と宮野さんは次の試練を自分に課している。

「社会に出て、法学で勉強したことが目の前で起こることの面白さや、資格者ならではの経験を味わってほしいですね。決してガリ勉タイプではなかった彼の快挙。この前例は後輩にとっても刺激になるはずです」(今川嘉文教授)



今川 嘉文教授

京都世界遺産PBL 「醍醐寺×龍谷大学」

社会学部
コミュニティマネジメント学科
笠井 賢紀 講師

一緒に課題を探るところから

世界遺産醍醐寺の境内を、ワークシートとカメラを持って歩くのは醍醐小学校の4年生と大学生。これは学生が実施した醍醐寺マップ作りのためのフィールドワークの様子。醍醐寺の多様な魅力を子ども目線で再発見してもらい、出来上がったマップは、参拝者と醍醐寺の僧侶達が対話するきっかけにしてほしい。学生達が醍醐寺と一緒に課題を抽出し、それに対する策を練ったアウトプットの一つだ。

京都世界遺産PBL (Project Based Learning) 科目とは、大学コンソーシアム京都が単位互換授業として設けているもので、六つの世界遺産所有者と大学が組んで、2015年度から提供されている。学生はこれを利用して、大学や学部、学科、学年の枠を超え、世界遺産をフィールドに学ぶことができる。その授業リストに名を連ねるのは、社会学部コミュニティマネジメント学科笠井賢紀講師

が担当する「コミュニティマネジメント特論：世界遺産と学ぶ課題発見・解決過程」。

笠井講師がこだわるのは、まず現場を歩み、現場と語り、課題を探るところから学生自身がやっていく点。教員の専門分野など具体的な切り口が用意されての授業が多い。そんななか、社会調査が専門の笠井講師は「課題発見解決の方法をジェネラルに教え、それを実践してもらおう」というスタイルを貫く。醍醐寺側の賛同も、その点であった。

「顔合わせしたときに、どんな課題を提示したらいいですかと聞かれたのですが、それは私達と醍醐寺さんで一緒に発見したいとお伝えしました。それならぜひやりましょうと言ってくださって。本当はこんなことしてほしいというのがあると思うのですが、そこを全部こらえて、学生達が発想したものを受け入れてくださいました。いいパートナーに巡り会えたと感謝しています」



Feature
Article

People
Unlimited

Education
Unlimited

World
Unlimited

People
Unlimited 龍谷人

News &
Topics

「醍醐寺の魅力発見マップ」作りのためのフィールドワークの様子



覚悟が問われる、地域協働型プロジェクト

1年間の授業の前半は講義中心。課題発見のプロセスとして聞き取り、街歩き、インタビューの仕方、アンケートの取り方。またグループワークのように細やかに意見を吸い出せるワークショップの手法を紹介。そして、夏休み前に醍醐寺境内で合宿をおこなう。ここで、学んだ手法を使って課題抽出を試みるのだ。僧侶や職員も巻き込んで、インタビューやグループワーク。一方向からの話だけではなく、語らうなかで見えてくる課題を探す。

後半はいよいよ行動を決めていく。学生達は、僧侶と地域住民との交流が限定されてい

ることや、魅力が多様すぎて逆に伝わりにくい点を課題とした。解決策として、小学生の目線による「醍醐寺の魅力発見マップ」作りと、五大力尊仁王会(五大力さん)の日に「五大力カフェ」の開催を企画し、僧侶と地域の関わりを図り、醍醐寺の魅力をより多くの方々に伝えたいと考えた。

受講生は、現場に出る経験が嬉しい、やる気に満ちた1年生がほとんど。また自分と歴史あるお寺との絆ができたということも喜びであるようだ。彼らの主体的な学びを支えるのは、メンターと呼ばれるアルバイトスタッフの学生。笠井講師に代わって現場や業者との連絡や調整、学生のサポート、活動報告などをおこなう。



「醍醐寺の魅力発見マップ」を作った後、発見したことをシェアした



笠井賢紀・かさいよしのり
 1983年生まれ。博士(政策・メディア)。慶應義塾大学大学院助教(有期・研究奨励Ⅱ)(非常勤)、横須賀市都市政策研究所研究員などを経て現職。まちづくりや社会調査に取り組み。担当科目は「語りから未来を紡ぐ」など。2017年度から社会学部でスタートする「社会共生実習」では「能美の里山生活史プロジェクト」を担当する。
 2015年から担当する京都世界遺産PBL「醍醐寺×龍谷大学」では、受講生達が任意団体「醍醐寺×龍谷PBL」を立ち上げ、キャンパスプラザ京都の学生Peace+登録団体として承認された。

今年度は、前年の受講生2名がメンターとなった。「2周目となる彼らは、ちょっと俯瞰的な発想…現場に巻き込まれずにコミットするという微妙な距離感を持っていて、調整役となるので人と接するときの柔軟な態度姿勢も身につく。まさにコミュニティリーダーの能力なんです」

醍醐寺とのプロジェクトは節目となる3年目に入る。同時に社会学部では、学科横断型の新しい実習「社会共生実習」が2年生対象に動き出す。大学による地域協働型の取り組みには新しい話題への期待も膨らむが、「地域も教員も協働に本気になるという覚悟、地域の主体性を削がない関わり方への覚悟が重要」と笠井講師は語る。

05 | Education, Unlimited

管理栄養士の卵がサポート 選手達のカラダづくり

農学部
食品栄養学科

石原 健吾 准教授

管理栄養士の卵とアスリートをマッチング

本学では全国的にも珍しく、農学部に管理栄養士養成課程(食品栄養学科)が設置されている。食糧の生産・消費という循環のなかで、消費者に最も近いところにいる管理栄養士は、栄養と健康の専門家。平均的な大学の管理栄養士養成課程では、食品やヒトの体についての学習はおこなうが、食糧生産を体験することはない。龍谷大学農学部を巣立つ管理栄養士は、全員が田植えや収穫、食品加工などの「食の循環実習」を経験する。同じ農学部の、生産分野や社会経済分野などの他学科生と混ざり合って学ぶ土に根ざした体験が、食の安心・安全を知り、日本人の健康を支える管理栄養士を育てる。

日本人の健康を支えるもう一つの要素が「運動」の観点。食品栄養学科には、アスリートを栄養面から支えたいという夢を持つ学生がいる。厚生労働省のガイドラインに準拠し

たカリキュラムのなかには、病院や学校、企業、介護施設などの現場はあっても、スポーツ選手を意識した実習がない。一方で、学内には様々な体育会系部活動に励む選手達がいる。一人暮らしの選手や、トレーニングを終えて夜遅くに帰宅する選手は、食事の栄養バランスや規則正しさまでは目を向けさせていない。そんな選手達と、スポーツ選手に関わる実践の場を求める管理栄養士の卵をマッチングさせよう、というのが石原健吾准教授の取り組みである。管理栄養士の学びを充実させ、龍谷スポーツの強化にもなるプロジェクト「RYUKOKU SPORTS+N(栄養)」。

選手から依頼があると、石原准教授と食品栄養学科有志の学生達が立ち会って、食生活チェックや身体計測をおこなう。筋肉量や体脂肪率、貧血や骨密度の検査、運動能力測定からも食事背景が見えてくる。鉄分が不足していれば赤身の肉や魚の摂取を奨めるなど、授業で得た知識から学生がアドバイスする。



Feature
Article

People
Unlimited

Education
Unlimited

World
Unlimited

People
Unlimited 誰か人

News &
Topics

女子バレーボール部に貧血検査と栄養チェックをおこなう



分析結果を聞いた選手がトレーニングメニューや食習慣を見直し、二カ月後には変化が出たという結果もある。続けていくと選手側もデータと体の変化が楽しくなり、食を中心とした自己管理意識が高まってくるのだ。

「選手達に体づくりにおける食の重要性を伝えることが目的です。一回の講習ではその場だけで終わってしまう。継続するためには、選手との信頼関係をつくることが重要です。食品栄養学科の学生はまだまだ卵ですが、繰り返し足を運ぶことで、確実に選手の意識は高まる。管理栄養士志望生にとってもカリキュラムにない経験を積める。お互いにとってメリットがあります」

食と運動から社会を変えよう

管理栄養士となり花形アスリートに関わるのは狭き門だが、スポーツをする人や運動が必要な人は、どこに就職しても出会うはず。運動と栄養のことをしっかり話せる人材が求められている。「運動と栄養の教育は元気な子どもを増やし、日本人の健康寿命を延ばす。授業と違うところで、このような機会を設けていくのは意味のあること」と語る石原准教授。

きちんと食事を摂っていない選手達には、まず「規則正しく食べよう」と導く。次にお腹を満たすだけでなく、栄養表示を見てみる。その次に「熱を加えたら小さくなるサラダより、丸ご



ラグビー部と「アスリート食」の試食をおこなう



石原 健吾・いしはら けんご

1972年京都市生まれ。京都大学農学部農学
研究科農学博士。専門は応用健康科学。福山女学
園大学准教授を経て2015年より現職。スポー
ツ栄養学を一般人の健康増進、競技者のパフォー
マンス向上という両面から研究。休日は趣味の自
転車を楽しむと同時に、数分おきに自分の血糖値
を測り、補給食と運動の関係をテストしたりして
いる。「教育とは、快適なゾーンから引き離し、失敗
を安全に経験させるもの」がモットー。

との野菜を摂った方がいい」「お総菜を買うよりも少しの手間で調理するといい」とアドバイス。そこから素材に目が向けられ、野菜の値段、産地や生産方法がなぜ違うのかとなる。「腸に栄養サプリメントを入れたらいいだけではない。アスリートこそ『パフォーマンスを引き出す健康な心と体をつくる食』に目が向き、食への倫理観を持つのが理想。それは本学だからできること」

食とスポーツは似ている。短期間ですぐには変わらないが、今はじめると、3カ月先が違うのだ。2015年から石原准教授のサポートを受けた自転車部の選手は、大会での成績につながりプロの道へ。本学の選手達が農と食の体づくりでレベルアップする日も近いかもしれない。

05 | Education, Unlimited

世界のジャーナリズムを学び 真実を顕かにする市民となれ

国際学部
国際文化学科

八幡 耕一 准教授

MOOCで世界標準の学びを得る

八幡ゼミは教員が前に立ち黒板を使って授業をするような講義方法ではなく、ほとんどがディスカッションやディベート。学生達は、授業時間以外にインターネットで海外の大学が提供する講義を視聴してから集まってくる。ゼミの時間はそこで各自が学んだ内容をもとに、議論を深めたり実践に移していくというスタイル。このような「反転学習」(flipped learning)が近年教育現場で導入されはじめています。授業で学び、課題で復習するのではなく、事前に個々に学んできて、授業ではそのテーマを深めたり議論することを中心にする。

八幡准教授がその課題教材に利用しているのが、近年注目されているMOOC(Massive Open Online Courses)と呼ばれる、インターネット上に公開された授業システム。日本語では「大規模公開オンライン講座」と訳され、世界各地の大学が競って参入し、多くの授業を

無償で公開している。「市民ジャーナリズムの実践」がテーマのゼミ、記者クラブなどを抱える日本の特異なマスメディア環境を経由するよりも、世界標準のジャーナリズム論から学ぶべきだと八幡准教授は考えた。その点でもMOOCは適切な教育教材だった。

今年度のゼミ3年生は、ミシガン州立大学のジャーナリズム論の講座『ニュースの集め方』『ジャーナリズムの未来』などを教材とした。1コマが5分～15分程度で、英語ではあるが再生速度も調整可能。必要に応じて英語字幕も表示できる。疑問点は留学生のティーチングアシスタント(TA)に相談できる。ゼミでは、例えばあるときは「ジャーナリストが守らなければならないことは？」という八幡准教授の問いに対して、学生達は視聴した内容をもとに自ら考え、回答。そして日本での記事ねつ造などの問題に対し「なぜそんなことが起きるのか」「ジャーナリストのあるべき姿は」などと議論していく。



Feature
Article

People
Unlimited

Education
Unlimited

World
Unlimited

People
Unlimited 個人

News &
Topics

個々にMOOCで事前学習し、ゼミの時間はディスカッション



市民ジャーナリズム精神を育む

ジャーナリズムというとき、日本はまだプロとそうでない人との間に壁があるが、海外では敷居が低くなっている。自分達で興味を持ったことを取材しソーシャル・メディアで発信するなど、価値観の多様化や情報技術の発達により、市民ジャーナリズムの裾野は広がっている。

「日本ではソーシャル・メディアの利用は進んでいても、個人でジャーナリスティックな事に関してなかなかやらない。やろうと思ったら、すごい倍率を抜けて新聞社やテレビ局に入らなければならない、と考えられている。でもそんな難しいことではないし、ある程度勉強すれば

能力も身につく。私はもっと一人ひとりが発信していいと思っています。取材することにより、する側もされる側も新しい問題に気がつき、もっと知りたい、理解するために勉強したいとなる。個人や社会が変わるきっかけになる」

立場に関係なく誰もが世界にアクセスでき、発信できる時代。プロではない市民ジャーナリズムの真価は、発信することでちょっとだけ良くなるかも、という緩さにあるのではないか。人間臭さ、社会のデタラメさ、個々の人間の弱さや嫌らしさを認めて、それを乗り越えられるよう少しだけがんばってみる。駄目なら駄目でいい。身近なところからでいい。一市民が真実や事実を探し求めることは決して無駄ではないはず。



留学生のTAが来る日はMOOC視聴での不明点を質問できる



八幡耕一・やわたこいし

1974年神奈川県生まれ、博士（国際広報メディア）。中央大学法学部卒業後、日本放送協会に勤務。その後カールトン大学（カナダ）大学院で公共行政学を学び、国際協力銀行（現・国際協力機構）で円借款業務に携わる。その後、北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院博士課程終了。2007年より名古屋大学大学院国際言語文化研究科メディアアプロフェッショナルコースで教鞭を執ったのち、2011年より現職。

ゼミでは時事問題を批判的に読み解き、自らの意見を問う。そして実際にテーマを設定し自分達で取材してみる経験も。例えば今は「京都市伏見区で外国人観光客が増えてくることによって生まれる摩擦」をテーマにグループに分かれ、現場を取材している。来年度には地元マスメディアを逆取材したり行政の対応を直接取材し、記事にして社会に発信していく。MOOCで世界標準のジャーナリズムを学び考えたことを実践する機会となる。

「建学の精神に『真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする』とありますが、ジャーナリズムも同じ。本学生が市民ジャーナリズムの先駆けのようになっていくことを期待しています」

06 | World, Unlimited

あなたの手中にある
「今、ここ」を大切に

アウン・サン・スー・チー氏
ミャンマー国家最高顧問



アウン・サン・スー・チー氏

1945年生まれ。ミャンマー連邦共和国の国家最高顧問。非暴力民主化運動の指導者、政治家。1991年ノーベル平和賞受賞。2013年本学名誉博士号を受けた。

2016年11月、京都迎賓館に本学学生10名が出向いておこなわれた特別ゼミナール。本学元教授 大津定美・典子夫妻の進行で、ゲストは、大津夫妻と親交の深い、来日中のミャンマー国家最高顧問アウン・サン・スー・チー氏である。学生達は彼女と机を囲み、英語で直接インタビューをした。

ミャンマーは今、壁を乗り越えていくとき

—これからどんどん発展していくと予想されるミャンマーで、伝統として残したいものはありますか？

スー・チー氏「起こるかもしれない困難に、立ち向かえるようにする力ですね。私はそれを教育だと思えます。困難がどのようなものかは、まだわかりませんが」

—新しい投資法が施行され、今後ミャンマーの経済はどのように変化すると思われますか？

スー・チー氏「ASEANの基準に適合した、外国からの我が国への投資が簡単になる法律を導入しました。地元の企業家にとっては、国際競争にさらされるので良く思わない人もいますが、発展途上国が直面すべき問題であり、乗り越えていくべきです。これによって経済発展を速める。それが狙いです」

—一度仕事をやめて主婦になられたのはなぜですか？仕事をしながら結婚・子育てをしたいと思っている、日本の学生にメッセージをください。

スー・チー氏「子どもが小さい頃は彼らに私が必要だったのです。子育てはとても楽しい記憶として残っていますよ。家族の絆を築くことができ、政治の仕事が始めた後、それがどんどん重要になりました。家族にあまり会えませんでしたからね。しかしこれは、誰もが自分で決めなければならない選択です。もちろん夫も子育てに関わる責任があると思います。今日多くの社会で家事の分担が進んではいるものの、実際はやっぱり女性の負担が大きいです。日本の男性を教育しなければならないですね。典子さん(大津夫人)から学んでください(笑)」



平和の実現は、一人ひとりにかかっている

—いま多数派のミャンマー人と様々な少数民族の間に平等はあるのでしょうか？

スー・チー氏「憲法上の平等はありますが、それが守られるかどうかは国民次第です。私達の国は多くの人の連合であり、平等になればなるほど連邦も幸福になるのだとわかってもらえるように教育しなければなりません。これは実践と継続した努力によって達成されるもので、一日では変わらないし、法律ができればうまくいくというものでもない。社会のために働こうと思っているあなた方にもかかっているのです」
—非暴力や正義感などのあなたのイデオロ

ギーに影響を与えた人は？

スー・チー氏「多くの人から素晴らしいことを学びました。素晴らしいと思う人が有名な人とは限りませんよね。私個人の生活のなかで知っている人達から学んできました。また非暴力は言わば政治的戦略です。力の行使は物事がはやく済むのですが、長期的にみれば多くの人の心に傷を残し、それを癒すには長い長い時間がかかります。ですから、たとえ時間がかかるように見えても、非暴力のほうがより良いのです。これは私のイデオロギーというより、国に連帯と平和をもたらす現実的な方策なのです」

—京都でも研究者生活を送られていましたが、人生にはどのような影響が？



スー・チー氏「友人ができ、日本人の生き方に触れることができました。大きい大学に行けばたいていの学問はできます。でも日本の文化を一番身近に学べるのは日本にいるときだけです。今を最大限活かしましょう。ブッダの教えに『現在に勝る瞬間はない』というものがあります。過去は変えられない、未来はわからない。あなたの手元にあるのは今だけ。望むことをやり遂げるための瞬間は、まさに今しかないのです」

参加した学生のコメント

「3年前の来日時にキャンパスで遠目にお見かけして以来で、まさか直接お会いできるとは。お話を聞いて、女性でも自分次第で大きな仕

事ができると視野が広がりました」(黒瀬さん)
「今できることは何か。一人の大きな影響ではなく、日常周りにいる多くの人から感銘を受けるとのお話が印象深いです。イングリッシュラウンジに通ってコツコツやってきた英語のおかげで、貴重な体験ができました」(岸田さん)



黒瀬 智加さん 経済学部国際経済学科4年生
岸田 健太さん 理工学部数理情報学科4年生

07 | Event Ryukoku Museum

歴代宗主のいざないで 真宗美術を堪能する

龍谷ミュージアム 2017 年度春季特別展
第 25 代専如門主 伝灯奉告法要記念

『浄土真宗と本願寺の名宝Ⅱ 一守り伝える美とおしえー』

2017 年 3 月 4 日 (土)～6 月 11 日 (日)

主催：龍谷大学 龍谷ミュージアム、浄土真宗本願寺派、
本山 本願寺、読売新聞社



国宝「安城御影 副本」1幅
室町時代 西本願寺蔵
<展示期間5/24～5/31>

本願寺関連の名宝が一堂に集う本展の見どころの一つは本願寺の歴代宗主との出会い。昨秋の11代までに続き、今春は江戸期の12代

准如上人以降の歴代宗主10名に、親鸞、蓮如、顕如を加えた肖像がずらりと並ぶ。

国宝「安城御影 副本」(室町時代 西本願寺蔵)は、親鸞聖人の生前に描かれた現存する御影三件のうちの一件「安城御影」が蓮如上人時代に複製されたもの。当時すでに確認が難しくなっていた表情部分が復刻され、蓮如直筆の讚銘が添えられている。親鸞聖人の顔立ちの手がかりとなるもので、5月24日～31日の8日間展示。

加えて浄土真宗が仏法伝来の恩人とする聖徳太子を紹介。重要文化財「聖徳太子孝養像」(鎌倉～南北朝時代 西本願寺蔵)は、5月



重要文化財「洛中洛外図」(部分) 江戸時代 富山・勝興寺蔵

30日～6月11日の展示。「聖徳太子といえば太刀を持ち髭を蓄えた政治家の姿をイメージしてしまいが、それは明治政府の意向で、それ以前の時代では真宗で大切にしていた『孝養像』(若き太子が父の用明天皇の病氣平癒を仏に願った姿)が主流だったのです」(石川知彦副館長)

富山・勝興寺所蔵の重要文化財「洛中洛外図」(江戸時代)は数ある洛中洛外図のなかでも17世紀前期、本願寺が東西に分かれて間もない頃の作。華やかな洛中に二条城とその南西に西本願寺が描かれた作品としてはごく初期の屏風といえる。展示は4月18日～5月7日。

また、秋展に続き本願寺が誇る平安期の名宝・国宝「三十六人家集」も常時2帖ずつ展示。

「『三十六人家集』が公的な美の書風だとすると、自由で普段着の美しさにあたるのがほぼ同時代作の国宝『類聚古集』(龍谷大学図書館蔵)。この二つの国宝の書風の違いをぜひご覧ください」(鏡山智子リサーチ・アシスタント(RA))



石川 知彦 副館長
鏡山 智子 RA

第14回 青春俳句大賞

「龍谷大学青春俳句大賞」は、世界最短の詩形文学である「俳句」を通じて、現代に生きる若者が感じたこと、思ったことを自由に表現し、社会に発表するための場を提供することを目的として2003年度から開催しており、今年度で14回目を迎えました。

今回は80,300句の応募があり、多くの力作が寄せられるなか、厳正なる選考をおこなった結果、見事に最優秀賞入賞を果たした作品をここに発表します。

中学生部門 最優秀賞

初めての聖書の授業風薫る

愛知県 杉野 和奏さん 私立南山中学校女子部1年生

評・茨木 和生

牧師様が神父様から受ける初めての聖書の授業である。初夏の季語、風薫るが一句を初々しいものにしてている。キリスト教関係の私立中学校の生徒の句と思われる。

高校生部門 最優秀賞

停泊の船の汽笛やパリー祭

大阪府 伴野 奈央さん 大阪府立清水谷高等学校3年生

評・茨木 和生

フランス革命記念日の七月十四日は、フランスの建国記念日として祝われて賑わう。パリー祭は日本での呼び方だが、港に停泊している船もこの日汽笛を鳴らして祝う。

短大・大学生部門
最優秀賞

冬服の揃つてゐたる筆筒かな

東京都

中西 亮太 さん

東京大学大学院修士課程2年生

評・大峯あきら
下宿の部屋の筆筒をあけて見たら、冬に着的洋服が入手されて、きちんと揃っていた。自分の留守中に母が訪ねてきて整理してくれたのだ。この句は「冬服」の季語によつて成功している。

想いでの修学旅行部門
最優秀賞

夏近し広目天の筆持つ手

静岡県

上村 陸哉 さん

静岡市立清水第七中学校3年生

評・大峯あきら
広目天は四天王の一人で、須弥山に住して西方を守護する神である。右手に筆、左手に巻物を持つが、この句はその筆に注目したのである。その念怒の形相は初夏にふさわしい。季語の選択が正確である。

文学部部門
最優秀賞

歩く距離延ばす病後の道の春

愛媛県

菅 伸明 さん 一般

評・入澤崇
つらい病の身から解放され、リハビリを兼ねた散歩に力を注いでいる様子が目に浮かびます。病を得る前と同じ散歩道であっても、以前とは違った景色に見えていることでしょう。

英語部門 最優秀賞

Fallen to moss once again it blooms white camellia

京都府 朽木 久子 さん 一般

評・ウルフ・スティープン

ほろりと落ちたに違いない白い椿は、生き生きとした緑生す苔の上に凜とあつて、新たな命をまとうように輝いている。

龍谷人

赤ちゃんとお畑をつなぐ 旬の有機野菜の離乳食

株式会社はたけのみかた 代表
武村 幸奈さん

赤ちゃんが口に入れる食べ物こそ安心素材でおいしいものがある。でも離乳食を作る時間がないから、後ろめたい思いで市販のベビーフードを使うことも…。そんな忙しいママ達を救うのが『manma 四季の離乳食』。滋賀県産の有機野菜だけを使い、旬のおいしさにこだわったベビーフードだ。

manmaを企画する、株式会社はたけのみかたの代表を務めるのが武村幸奈さん。在学中の2014年に呼びかけて集まった4人で起業し、3期目に突入した。2015年9月の販売開始以来、ネット注文を中心に売り上げは右肩上がり。

きっかけは、地産地消を促進する学生グループ『伏見わっしょい新党』の活動で、有機農家との接点を持ったこと。実家がレストランを営む武村さんは、食が身近ではあったものの、食卓に並ぶまでの食材にかけられた思いを初めて知ったという。効率や規格重視の社会では評価されにくい有機農家。継続的に彼らの力になれないか…。

一方、野菜市に足を運んでくるのは子育て世代。「赤ちゃんが生まれてから素材が気になって…」と語る。武村さんは市販のベビーフードを試食して首をかしげた。大量生産で材料の産地も収穫時期も不明、野菜の風味もない。そうだ、農家とお母さん達を縁結びしよう。離乳食にこそチャンスがある。

でもまだ子育ての経験はない。そこで自分が生まれた地元滋賀の産婦人科にまず相談に赴き、管理栄養士にアドバイスを求め、ママサークルなどでマーケティングを始めた。一方で契約農家の開拓。社員の4人で足を使い体を使い、時間をかけて商品開発をおこなった。売り上げに比例して、野菜の買い付け、調理、梱包、発送、ミーティングととどんどん多忙に。今の月間製造目標は20,000個。

「生み出したいのは子育て世代と農家さんの心のつながり。これから、もっと顔の見えるような距離感と絆をつくる仕掛けをして、野菜を食べる喜びをさらに高めていきたいです」



Feature
Article

People
Unlimited

Education
Unlimited

World
Unlimited

People
Unlimited 継承人

News &
Topics

たけむら ゆきな 1992年滋賀県生まれ。株式会社はたけのみかた代表。2015年政策学部卒、1期生。1年生の時に、実践型課外プログラム「Ryu-SEI GAP」からうまれた「伏見わっしょい新党」の立ち上げメンバーとなり、その活動を経て当時の代表や同じ思いを持つ仲間と在学中に起業。

龍谷人

世界に挑む 人を幸せにする コーヒーの伝道者

小川珈琲株式会社

小林 康人さん

コーヒーの手動抽出技術を競う大会、ジャパンプリューワーズカップ2016。強豪130人がペーパードリップなどの手動器具を使い、コーヒーの魅力を抽出技術とプレゼンによってアピールする。京都・小川珈琲勤務、29歳の小林康人さん。彼は、豆の個性が際立ちかつ安定した味が出せる器具「エアプレス」と、温度など抽出環境のコントロールにより、コーヒー豆の甘みと個性を最大限に引き出そうとした。多くのコーヒー職人が技を競うなか、彼のコーヒーは見事日本チャンピオンの座に。6月の世界大会への出場が決まった。

「美味しいコーヒーの感動で人を幸せにしたい。そのアイデアを巡らすのが好き」と今でこそコーヒー職人だが、高校時代は水泳の国体選手だった。大学では水泳同好会に。ところが指導者がいた高校までの環境とは一転し、当時は監督もコーチも不在。でも、自分でゼロから大会までのプランを組み立てて実行することで、今までにない達成感、喜びを感じ

ることができた。「目標が明確であること、そしてそれを達成するためのプロセスを楽しむことが大切」と学んだ。

卒業後、小川珈琲に入社。喫茶店卸を経て現在は量販店営業担当、6年目。営業力を磨くために味覚を極める人、抽出を極める人など多くの先輩の背中を見てきた。あるとき営業部に、第3回ジャパンプリューワーズカップ出場者を募る話が。迷わず手を挙げた。彼は多忙な仕事の合間を縫って世界レベルのバリスタによるトレーニングを受け、コーヒーの知識をさらに研鑽して挑む。結果、初出場で準優勝。悔しくて、もう一度出させてほしいと会社に願い出た。「1番になると決めてチーム全体で取り組みれば優勝できる」そして今回の優勝。

約40カ国のチャンピオンがハンガリーで戦う世界大会では、英語でのプレゼンも待っているが、彼は「課題は多いが一つひとつ着実にクリアするだけ」と落ち着いている。

人を幸せにする美味しいコーヒーの伝道者、めざすは世界一だ。



こばやし やすひと 2011年文学部卒。新潟県出身。小川珈琲株式会社勤務。2015年ジャパンブリューワーズカップ初出場で準優勝、2016年優勝。2017年6月のハンガリーでのワールドブリューワーズカップに出場が決定している。

龍谷人

減災意識向上がミッション 新時代の気象プレゼンター

株式会社ウェザーニューズ
キャスター

藤岡 茜さん

デスク前に設置された六つのタブレット画面や、専門予報士とつながる大画面などを一瞬で選び組み合わせ、ときにはスマホのアプリを操作案内しながら、ネットを通じて寄せられる全国の視聴者からのコメントを拾いあげる。生放送で3時間、お天気情報を伝え続けるのが、常時1万人超が視聴するインターネット放送「SOLiVE24」の専属キャスター、藤岡茜さん。お天気キャスターというと、テレビではニュース番組会場の数分間の登場というイメージだが、彼女の仕事ぶりはほかとは簡単に比較しがたい、新しいプロフェッショナルの姿であった。

藤岡さんは卒業後メーカーに入社。でも、幼い頃から憧れていたのは「お天気お姉さん」。ある日、彼女はパソコンの検索欄にそのワードを打ちこんでみた。画面に上がったのが今の仕事の募集。書類審査応募者全国2000人から選び抜かれオーディション、そのなかで視聴者の投票で選ばれ2014年に夢のキャスターとなった。

ウェザーニューズは千葉・幕張に本社を構える、世界最大規模の気象情報会社。あらゆる気象情報と対応策をきめ細かく提供し、暮らしの安全を支える。注目すべきは、一般の生活者からの「降り始めた」という声を気象予測に活用している点。そこで重要なのが、「サポーター」と呼ばれる全国津々浦々の視聴者ネットワークだ。各地からネットを通じて寄せられる「今の空」「今の体感」がリアルタイムの気象情報となり、それを細やかに伝えることで減災をめざす。

このシステムが実際に役立つには、生活者の目線に近い立場で情報を選択し伝え、生活者から愛され、耳を傾けたいくなるキャラクターかどうか左右する。その重要な役割を担っているのが彼女だ。

「気象への意識が低かった方も、私の存在によって『気づいたら防災・減災できていた』となれば。そんな気持ちで放送しています」

彼女は今日もスタジオから生活者の暮らしに寄り添い、日本の空を伝えている。



Feature
Article

People
Unlimited

Education
Unlimited

World
Unlimited

People
Unlimited 継承人

News &
Topics

ふじおか あかね 1990年大阪市生まれ。2013年経済学部卒。株式会社ウェザーニューズ、24時間空をLIVEする番組「SOLiVE24」担当キャスター。学生時代は本学短期大学部で福祉などを学んだ後、より広い視野で学びたいと経済学部へ編入。東京のメーカーに勤務後、2014年より現職。

最新情報



一般社団法人 日本フライングディスク協会 提供

WFDF2016世界ジュニアアルティメット選手権大会で6位

2016年7月、瀬田キャンパス一般同好会フライングディスクサークル「ROC-A-AIR」の衣川幸汰さん(理工学部2年生)がWFDF2016世界ジュニアアルティメット選手権大会日本代表として選抜され、世界6位の結果を残した。衣川さんは日本チームの主将も務め、全試合に出場。9試合で6アシスト2ゴールをあげ、チームの勝ち点や躍進に貢献した。「ROC-A-AIR」は一般同好会ででありながらも、世界大会への選手派遣要請がかかる実力あるチーム。



バトンチアSPIRITS 第38回バントワーリング関西大会で金賞受賞、全国大会へ

2016年11月、第38回バントワーリング関西大会で、バトンチアSPIRITSが金賞を受賞、全国大会の出場権を獲得。全国大会は12月に幕張メッセイベントホールで開催され、見事金賞。大学の部で最優秀賞を受賞し、リベンジを果たした。また、2017年2月には第42回全日本バントワーリング選手権関西大会に出場。3月にいしかわ総合スポーツセンターで開催される、全国大会への出場権を獲得した。



世界学生バドミントン選手権 女子 日本選手初の優勝

2016年9月、ロシアでおこなわれた第14回バドミントン世界学生選手権女子シングルスで、杉野文保さん(法学部4年)が見事優勝した。女子シングルスでは、日本人選手初の快挙で、全4試合で1ゲームも落とさない完全優勝で頂点に立った。「初めて日本代表として参加し、いろんな国の人との試合で、日本人とは全然違うショットや、リズムがあったのですごく刺激になった。そして、どんな状況でも我慢することが勝ちにつながることを実感した」(杉野さん)。



女子バレーボール部 秋季リーグも見事優勝

関西春季リーグに続き、秋季リーグでも優勝を果たした女子バレーボール部。最優秀監督賞に江藤監督、最優秀選手賞に影山萌彩主将(経営学部4年生)、ベストスコアラー賞に金本望さん(経営学部4年生)。最優秀リベロ賞に福留慧美さん(経営学部1年生)、最優秀新人賞に島田櫻子さん(文学部1年生)と個人賞ラッシュも止まらない。女子バレーボール部の監督には今年度から元全日本代表の江藤直美氏が就任。気持ち新たに早速の大躍進となった。



全国吹奏楽コンクールで金賞を受賞(2年連続・10回目)

2016年10月、第64回全日本吹奏楽コンクールにて吹奏楽部が2年連続金賞に輝いた。自由曲のバレエ音楽「火の鳥」では圧倒的なスケールで重厚な音が響き渡り、聴衆からは感動の拍手と歓声があふれた。また、2017年2月には第43回関西アンサンブルコンテストにクラリネット四重奏が出場し金賞を受賞、3月18日の全国大会への出場を果たした。スイスで開催される国際青年音楽祭より招聘を受け、2017年7月には海外遠征する予定。



藤岡ゼミ「Café りんごのおうち」 でりんごの魅力を発信

2016年12月、経営学部の藤岡ゼミ生が、りんご農家のこだわりを伝え、若年層のりんご消費量向上をめざす「Café りんごのおうち」を、京都市内中心地に2日間限定でオープンした。藤岡章子ゼミナール(マーケティング専攻)の学生が中心となるプロジェクトチームは、青森県弘前市のりんご農家の協力のもと「農学連携りんごプロジェクト」に取り組んでいる。その一環として運営されたカフェでは14種類を取り揃え、りんごを活かしたメニューなどを用意して、その魅力を発信した。



辻田ゼミ「西日本インカレ(合同研究会)2016」で最優秀賞を受賞

2016年12月、日経BPマーケティングが主催する「西日本インカレ(合同研究会)2016」で、経済学部の辻田ゼミの3年生3名が最優秀賞を受賞。加藤健さん、深町誠太さん、安本諒さんは、「伝統産地の立て直しに必要な二つのステップ～ノウハウの蓄積と共有の重要性」をテーマに発表。有田焼産地と信楽焼産地を何度も訪問してデータを作成し、丁寧に分析した点が高く評価された。今回の大会結果は、来春の『日経ビジネス』に掲載される予定。



理工学部でシリコンバレーデザイン思考ワークショップを開催

2016年11月、「デザイン思考」の指導で評価の高いChristina Jenkins氏を講師に迎え、ワークショップを開催した。「デザイン思考」とは、発想の中心に“ひと”を置いて新しい製品やサービスを創造する思考法。本ワークショップでは、デザイン思考を生んだスタンフォード大学d.schoolのカリキュラムをそのまま体験した。参加した理工学部の学生は、「共感」「問題定義」「創造」「プロトタイプ作成」「テスト」からなる、デザイン思考のプロセスを実践した。



「とびだせビャクドー！ ジッセンジャー」が発売

大学院実践真宗学研究科有志の学生によるヒーローショー「ジッセンジャー」をもとにした絵本「とびだせビャクドー！ ジッセンジャー」が、本願寺出版社から発売されることになった。絵本を手がけるのは人気漫画家の森田まさのりさん。森田さんにとっても初の絵本作品となり注目が集まっている。2017年4月中頃発売予定。B5判。価格1,300円(税抜)。



経済学部、授業内ピア・サポーター研修会を開催

2017年2月、経済学部で4月からの入門演習でのサポートに向けて、授業内ピア・サポーターの全体研修会を開催した。経済学部では、2016年度後期から、新たに「授業内ピア・サポーター」制度を導入。ピア(peer)とは、「仲間」を意味する言葉。授業内ピア・サポーターは、「入門演習」「基礎演習」などの授業内で、1年生と担当教員を結びつける役割を果たす上級生のこと。後輩達に自分の学びの経験を伝えながら、自らも積極的に学ぶ技法を得ていく。



第2回平成28年熊本地震復興支援ボランティア活動

2016年11月、学生30名が熊本地震復興支援ボランティア活動をおこなった。学生達は、活動前に阿蘇の被災状況を視察し、メディアを通さない、甚大な被害の様子を目の当たりにした。今回の主な活動は、いちご農家のビニールハウスでの農業支援ボランティア。参加者達は協力して、ビニールハウスのなかに大量に降り積もった火山灰を、取り除き運び出す作業をおこなった。



龍谷大学、日本料理アカデミー 及び日本料理ラボラトリー研究 会が包括連携協定を締結

2016年9月、龍谷大学とNPO法人日本料理アカデミー、日本料理ラボラトリー研究会との間で、日本料理の伝統的な技術に関する研究をさらに推進することなどを目的とした包括連携協定を締結した。今後、三団体で日本料理の伝統的な技術に関する研究をさらに推進し、研究成果を社会に還元していく。



文学部歴史学科文化遺産学専攻 開設記念シンポジウムを開催

2016年12月、法隆寺管主の大野玄妙氏(本大学院修士課程修了)、東京大学名誉教授であり前文化庁長官の青柳正規氏をお招きし、「文化遺産保護の歴史と未来—文化遺産保護を法隆寺から考える—」を開催。約350名の来場は文化遺産保護への関心の高さがうかがえる。歴史学科文化遺産学専攻の学生達が事前準備から携わり、文化財と長くかかわられてきた講師の方々のお話を、直接聴くことのできる貴重な機会となった。



龍谷大学が京都市「京(みやこ)グ ローバル大学」促進事業に

今年度京都市は、各大学が留学生誘致をはじめ、日本人学生の海外留学派遣、交換留学にもつながる市内大学と海外大学との連携など、大学及び学生の国際化を推進する「京(みやこ)グローバル大学」促進事業を創設。この事業に本学が、事業名「世界に響きあう」京都発世界標準キャンパス in Ryukoku」創成構想」を申請し、採択された。2016年度より2019年度までの4年間、留学生誘致を中心とした取り組みを進めていく。



海水のDNA新解析法により わずか1日で魚種の8割を検出

理工学部の近藤倫生教授が代表を務める研究グループが、海水中に含まれる排泄物などのDNAから周辺の生息魚種を明らかにする新技術を使うことで、目視観察よりも効率の良い魚類生物相調査が可能なることを明らかにした。本研究で、魚種が多い場所でも、短時間で多地点の魚類相を調べることが可能に。広域的な外来種の侵入や分布拡大の調査、アクセスが難しい深海や地底湖、危険な汚染水域や生物採集が禁止された保護区での活用が期待される。



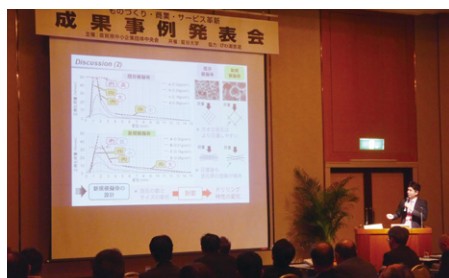
深草キャンパスに 「専精館(せんしょうかん)」がオープン

2016年10月、第5次長期計画での「学生の主体的な活動を積極的に支援する」ための施設整備事業として屋内運動施設「専精館」がオープンした。アリーナを1階中央に、300人収容の客席を2階に配置。床面に設備された空調は全競技で風の支障を受けない設計。2階には、柔道国際規格の畳が設置されたトレーニング室があり、武道系サークルの練習拠点に。一周250mの2階廊下では、各種ウォーミングアップが可能。ミーティング室も完備している。



大宮キャンパス東麓建替えに伴い 埋蔵文化財発掘調査成果を発表

2016年10月、龍谷大学大宮キャンパスの東麓(とうろ)建替えに伴い、東麓取り壊し跡地の埋蔵文化財発掘調査結果を発表した。東麓の地は平安京での東市跡にあたり、鎌倉時代～室町時代に鍛冶工房を有する町家であったことが明らかになり、未だ明らかになっていない七条市町周辺の性格を解明できる成果となった。また、出土例の稀な南北朝時代の青銅製鍋も完全な形で出土した。調査は文学部歴史学科文化遺産学専攻の國下多美樹教授が担当。



産官学連携「ものづくり・商業・ サービス革新『滋賀県』成果事例 発表会」を開催

2016年11月、本学が産官学連携事業の一環で共催する、滋賀県中小企業団体中央会主催の「ものづくり・商業・サービス革新『滋賀県』成果事例発表会」が開催され、企業や関係機関などから140名が参加した。本学と県内企業との連携がさらに深まり、産官学連携の取り組みがますます活発になることが期待される。



社会に貢献した校友4名に 龍谷賞贈呈

2016年11月、社会に貢献し顕著な業績をあげた校友を顕彰する、「第27回龍谷賞贈呈式」がおこなわれた。龍谷賞は松浦俊海さん(壬生寺貫主)、龍谷奨励賞には井上雅博さん(京表具「井上光雅堂」)と大原拓さん(NHKドラマ番組部チーフプロデューサー)、龍谷特別賞は寺尾文尚さん(社会福祉法人ひとは福祉会理事長)に贈られた。龍谷賞の贈呈は1990年から毎年、校友の意識を高め励みとすることを目的におこなわれている。



文学部長に 安藤 徹(あんどう とおる)教授を選出 <任期>2017.4.1~2019.3.31

2000年に本学文学部に着任し、2009~2010年度に教務主任を、2013年度からは図書館長を務める。専門は日本古典文学で、とくに『源氏物語』を中心とした平安朝文学を研究している。

長年、龍谷エクステンションセンター(REC)のコミュニティカレッジでも、『源氏物語』の講座を担当してきた。



経営学部長に 野間 圭介(のま けいすけ)教授を選出 <任期>2017.4.1~2019.3.31

1991年に本学経営学部に着任、1998年に教授。2008~2010年まで入試部長、2012年に評議員、2013~2014年まで経営学部長、2015年からRECセンター長。専門分野は経営情報システム。



政策学部長に 只友 景士(ただとも けいし)教授を選出 <任期>2017.4.1~2019.3.31

滋賀大学経済学部で12年教鞭を執った後、2011年より本学政策学部教授。専門分野は財政学、地方財政論、経済学。



理工学部長に 松木平 淳太(まつきだいら じゅんた)教授 を再任

<任期>2017.4.1~2019.3.31

1992年より理工学部数理情報学科で教鞭を執る。2009年から本学科学技術共同研究センター所長、2012年同センター長、2015年より理工学部長。今回で2期目。専門分野は応用数理。



社会学部長に 津島 昌弘(つしま まさひろ)教授 を選出

<任期>2017.4.1～2019.3.31

2000年4月より、本学社会学部社会学科で教鞭を執る。2011年度に教授。これまで、評議員、矯正・保護課程委員会委員長などを務める。専門は犯罪社会学、社会統計学。とくに失業と犯罪、犯罪被害調査を中心に研究している。



農学部長に 末原 達郎(すえはら たつろう)教授を再任 <任期>2017.4.1～2019.3.31

2014年に本学経済学部に着任、農学部設置委員長を兼任。2015年度の農学部発足時から農学部長を務める。専門は、農学原論、比較農業論、食料人類学。とくにアフリカで、フィールドワークに基づく食料・農業問題を研究。主著として、『人間にとって農業とは何か』『アフリカ経済』『文化としての農業・文明としての食料』など。



短期大学部長に 中根 真(なかね まこと)教授を選出

<任期>2017.4.1～2019.3.31

1996年より山口短期大学、福山平成大学、関西福祉大学の専任講師を経て、2003年より本学短期大学部准教授に着任。2013年より教授。2015年より龍谷大学短期大学部 教務主任。専門分野は社会福祉学、保育学。



実践真宗学研究科長に 鍋島 直樹(なべしま なおき)教授を選出 <任期>2017.4.1～2019.3.31

1987年より本学文学部で専任講師として教鞭を執る。2003年法学部教授を経て、2010年4月から本学文学部教授として現在に至る。専門は、真宗学(浄土教思想・親鸞思想)、親鸞の死生観、仏教の生命観。主著として、『アジェセ王の救いー王舎城(おうしゃじょう)悲劇の深層ー』など。

新刊紹介

*値段はすべて税込価格で表示
*Book Caféについては龍谷大学
学長室（広報）まで

01

『つながる仏教』

みんなの
本棚

大來尚順(2004年度文学部卒業/
僧侶・翻訳家/山口県)共著



新たな仏教伝道に取り組む各宗派の若手僧侶が座談会を通して本音を語る。葬式仏教から、今を生きるための仏教へ焦点をあてた1冊。

2016年10月刊/170頁/ポプラ社/864円

02

『仏法の種まき』

みんなの
本棚

村上 太胤(1968年度文学部卒業/
法相宗薬師寺管主・龍谷大学客員教授・
龍谷大学校友会会長/奈良県)著



薬師寺管主として、お釈迦様の教えや仏教を広めた先達の実践から、周りの人が幸せになるよう行動する心の有り様を実感と決意を込めて説く。

2016年11月刊/206頁/講談社/1728円

出版情報

01:『食と農の教室3 食と農の環境経済学—持続可能社会に向けて』

宇山 満(農学部准教授)著

農業は環境にやさしいのか、あるいは環境の破壊者なのか?食の消費行動は、環境とどんな関係をもっているのか?経済学の目を通して考えている。

2016年11月刊/201頁/昭和堂/2160円

02:『中小企業の戦略的会社法務と登記』

今川 嘉文(法学部教授)著

中小企業の現場で直面する、法的課題に対する戦略的会社法務の提言集。事業継承の新たな手法と株主管理、会社の機動的運営など、豊富な図表を用いて解説。

2016年10月刊/444頁/中央経済社/4752円

03:『Visual栄養学テキストシリーズ「人体の構造と機能および疾病のなりたちII. 生化学」』

石原 健吾(農学部准教授)共著

新しい国家試験ガイドライン・カリキュラムに沿った内容。冒頭にシラバス掲載。文章は箇条書き主体。過去問解説。サイドノートに豆知識やメモなど。

2016年11月刊/158頁/中山書店/2500円

04:『夏日漱石 人間は電車ぢやありませんから』

佐々木 英昭(国際学部准教授)著

「日本人の先生」とまで呼ばれた文豪の思考とその推移をノートなど新資料の比較文学的探索や縁者聞き取り調査により照射する<内的>伝記。

2016年12月刊/382頁/ミネルヴァ書房/3780円

05:『蘇我氏の研究』

平林 章仁(文学部教授)著

推古天皇が蘇我氏になぞらえた「日向の駒」、馬子が割譲を求めた「葛城の県」、蘇我氏と仏教、石上神宮の祭祀などの問題から新たな蘇我氏像を提示する。

2016年11月刊/308頁/雄山閣/5400円

06:『回峰行と修験道—聖地に受け継がれし伝灯の行—』

楠 淳澄(文学部教授)編

一般人には窺い知れない「修験道」と「回峰行」の世界。現代における行の体現者と第一線の研究者とによって解き明かされる「伝灯の行」の真実。

2016年10月刊/114頁/法蔵館/1404円

07:『戦後イギリス外交と英米間の「特別な関係」—国際秩序の変容と揺れる自画像 1957～1974年』
橋口 豊(法学部教授)著

EU(欧州連合)からの離脱に揺れるイギリスが、冷戦期に形づくった現代につながる外交の枠組みを英米間の「特別な関係」の視点から分析する。
2016年10月刊/278頁/ミネルヴァ書房/7020円

08:『正しいマラソン』

河合 美香(法学部准教授)共著

昨年、公開講演いただいたプロマラソンコーチ金哲彦氏の編集による共著。トレーニングの基本から実践まで事例や図を示しながらわかりやすく解説。
2017年1月刊/192頁/ソフトバンククリエイティブ/1080円

09:『<オトコの育児>の社会学』

工藤 保則(社会学部教授)・山田 容(社会学部准教授)ほか編

子育ての主役ではなかったオトコ達に必要なのは気づきと行動である——迷いながら奮闘する<オトコの育児>を社会的に考察する。
2016年5月刊/248頁/ミネルヴァ書房/2592円

10:『現象学と科学批判』

丸山 徳次(文学部教授)著

現象学の学問論及び現代科学の動態分析と科学批判そして現象学による社会哲学についての諸論考を集め、人文学の危機に挑む。龍谷叢書第39巻。
2016年11月刊/386頁/晃洋書房/5184円

11:『地名が語る京都の歴史』

糸井 通浩(文学部名誉教授)ほか編

古代から現代まで縦の時系列で変遷をたどり、歴史・地理・言語・庶民宗教史などから地名に刻まれた「京都の歴史」を総合的に検証したもの。
2016年12月刊/496頁/東京堂出版/4860円

12:『基礎ゼミ 社会学』

工藤 保則(社会学部教授)・笠井 賢紀(社会学部講師)ほか編

日本学術会議社会学委員会による「社会学分野の参照基準」に則り、同基準が示す「基本的な素養」に対応する章編成で編まれた新しい教科書。
2017年2月刊/232頁/世界思想社/2268円

13:『質的社会調査の方法—他者の合理性の理解社会学』

岸 政彦(社会学部教授)共著

「他人を理解する」とは、どのようなことか。第一線で活躍する社会学者が書いた、質的調査のおもしろさを体感できる、まったく新しい教科書。
2016年12月刊/272頁/有斐閣/2052円

14:『ボランティアを生みだすもの—利他の計量社会学』

三谷 はるよ(社会学部講師)著

「どのような人が、なぜボランティアになるのか?」というシンプルな問いを精緻に研究。計量的なアプローチから明らかにしていく。
2016年12月刊/220頁/有斐閣/3780円

広報誌「龍谷」からプレゼント！

龍谷ミュージアムペア招待券・・・・・・・・・・10組20名様
農学部とアンデの共同開発商品「ソフト食パン」・・・・・・5名様
(賞味期限は、未開封の場合約30日間)



ご希望の方は、はがきにご希望のプレゼント名を明記した上で、住所・氏名・年齢・職業・電話番号（龍谷大学卒業生は卒業年度・学部なども）及び広報誌「龍谷」の感想・意見、あなたの近況などを書き添えてご応募ください。感想や近況は「読者のひろば」に掲載させていただくことがあります。あて先は右記「プレゼント」係まで。

締め切りは5月31日(水)必着。

応募多数の場合は抽選で。当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

広報誌『龍谷』83号(デジタル版) 読者アンケートのお願い

今後のよりよい広報誌づくりのため、Webアンケートにて皆様のご意見をお聞かせください。

なお、アンケートは、こちらから回答していただけます。

<https://www.ryukoku.ac.jp/enquete/>



広報誌『龍谷』のデジタル版配信について

広報誌「龍谷」はデジタル版でも閲覧できます。冊子版の発送を不要とされる方は、各号に綴じ込まれているハガキ、または以下のデジタル版配信申込ページにてお申し出ください。手続き完了以降は、毎号の広報誌「龍谷」刊行ごとに、ご登録いただいたメールアドレスにデジタル版発行のご案内をいたします。広報誌「龍谷」デジタル版配信申込ページ
<https://www.ryukoku.ac.jp/prdigital/>



読者のひろば

素敵なお学生、卒業生の姿に感激です。これからの息子の未来が輝くよう応援して参ります。

在学生保護者 T

広報誌に掲載されている在学生在が、将来の夢に向かってがんばっている姿をみると、元気をもらいます。

卒業生 N

広報誌のサイズがコンパクトになって、読みやすくなりました。

卒業生 M

お便り待っています

「読者のひろば」へのお便りをお待ちしています。また、「龍谷人」などへの推薦や情報をお寄せください。いずれも以下のあて先まで。※いただいた個人情報は、広報誌「龍谷」の編集以外の目的には使用いたしません。

《プレゼント・お便りのあて先》

龍谷大学 学長室 (広報)
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
電話：075 (645) 7882
FAX：075 (645) 8692
E-mail：kouhou@ad.ryukoku.ac.jp

編集委員

青戸 英夫、安食 真城、石橋 良太、井手 健二、
乾 真理、今川 嘉文、上手 礼子、落合 雪野、
小野 勝士、笠井 賢紀、岸本 直之、近藤 裕彦、
島根 良枝、谷垣 岳人、羽羽 孝行、徳田 眞三、
中根 智子、仁井田 都、藤原 直仁、松本 賢、
村井 龍治、山口 大、若林 雅子(50音順)
事務局
増田 滋彦、田中 秀樹、森崎 智史、橋本 和美

広報誌「龍谷」83号
2017年3月13日発行

編集：龍谷大学編集委員会
制作：龍谷大学学長室(広報)
発行：龍谷大学

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
電話 075(642)1111(代表)
龍谷大学ホームページURL
<http://www.ryukoku.ac.jp>



公式 facebook 「龍谷大学」

You Tube



公式 YouTube 「龍谷大学」



公式 Instagram 「龍谷大学」



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY